

日時：2011年5月26日

場所：幕張メッセ 202 室（地球惑星科学連合大会）

出席者：別紙

## 1 報告事項

### 1.1 Steering Committee の報告(熊谷)

- 予算は、associate member で分担金が支払えない国あり、ポルトガル脱退（なお、カナダはすでに脱退済み）
- fellowship は ISA の枠 3 名に加えて独自枠 2 名を採択の見込み、応募 9 名審査中（日本からの応募なし）
- 航海参加援助を行う、\$2000/件
- WG の補助を拡大
- コーディネータの給与変更（8割:週3日から4日雇用）
- ISA との関係：中国のインド洋探鉱申請あり、書類不備がなければ概ね認められる。認められても研究の継続は可能である。情報収集のために熱水データベースの登録を推進したが、現在登録 142 件
- きたる AGU-Fall meeting にあわせて 12/3, 4 にサンフランシスコで次期 10 年計画 The Third Decade Plan の会議を行う。初日は基調講演、2 日目には書き上げる。原則公開の会合で若手の参加は歓迎する。→ 日本側の対応必要（後で議論）
- Mantle Imaging WG のワークショップを 10/2-4 に東大大気海洋研で実施
- Indian Ocean のワークショップを 10/17-21 にモーリシャスで開催予定だが、詳細情報の確認中
- 今年の Steering Committee は中国杭州にて 10/13-14

以下の質疑応答があった

- (浦辺) ISA との関係はどうなっているのか？ → 情報のやりとりを進めようという段階。サイエンスとどのように関係を構築していくかは未だ不透明。現時点では中国からの申請書が出たという報告と、申請書が出た場合の扱い方についての説明があったのみ。
- (島) 航海への補助、ISA 報告、Third Decade meeting など、StCom で議論されている情報や、全体の ML に流れた情報でも、簡単に日本語の説明や重点を書いたメールを流し、必要なら国内対応を議論する方向にしてほしい → 了解

(浦辺さん) ISA との関係、意見の受付た結果は何か？

→情報のやりとりを進めよう。サイエンス側との関係はいまだ不透明  
中国の申請書が出たとの報告と、扱い方のレクチャーがあった。

追加情報

- コーディネータにボーナスを支払った（超過勤務への対応）

- 中国は2008年から Principle member に

## 1.2 国内活動報告

- 2010年国内連絡会は幕張で31名出席
- Steering Committee は英国で開催（報告事項参照） 熊谷、砂村出席
- InterRidge-Japan 研究集会（大気海洋研共同利用シンポ）は、初日一般講演、2日目は大河プロジェクト共催で国際セッションとして実施
- Long-Range Exploration of the Ridge Crest, 6月に英国で開催、熊谷、浅田、中村（光）、山本（富）参加、IRJWeb に報告あり
- The Mohole – A crustal journey and mantle quest を6月に金沢で開催
- 2010年の IR Fellowship に JAMSTEC 川口さんが選ばれ、WHOI に滞在、IRJWeb に報告あり

## 1.3 国内収支報告

- JAMSTEC50%、科研費「大河」総括班経費50%の割合で、分担金12500米ドルを支払った。
- IRJ 予算は連絡会会場費等のみ、23726円繰り越し

## 2 審議事項

### 2.1 分担金の支払い

- 昨年度同様に、JAMSTEC50%、科研費「大河」総括班経費50%の割合で分担金25000米ドルを支払うこととしたい。JAMSTEC に昨年同様12500米ドルの負担をお願いする。
- 継続的に JAMSTEC に半分を負担してもらうために、IRJ の活動を目に見える形を出していく必要あり。

### 2.2 国内体制

- StCOM 委員は熊谷、砂村、日本事務局 沖野

### 2.2 国際ワークショップの開催

- Mantle Imaging WG のワークショップとして10/4-6に' Workshop on Ocean Mantle Dynamics: From spreading center to subduction zone' を大気海洋研にて開催する。会合に先立って幌満の巡検を実施。
- 予算は IR のワークショップ費用、大気海洋研の共同利用（主に国内学生旅費）、大河から一部負担、東大海洋アライアンスに補助申請予定。
- 6月にHPを立ち上げる予定。
- 海外からの招待講演者の希望を受けつける。
- IR ワークショップの国内開催は久しぶりなので学生の参加を広く呼びかける（ポスター発表可）。

### 2.3 国内研究集会の開催

- 11/1-2で東大大気海洋研共同利用シンポとして通常通り InterRidge-Japan 研究集会を開催
- 詳細はまだ未定。学生の発表の場を残しつつ、レクチャー等の企画を入れたい。意見があれば早めに。

- 次期 10 年計画への日本の意見を最終的に集約する場として使えるか。過去 20 年の第一世代、第二世代のまとめの講演はどうか。

#### 2.4 次期 10 年計画への対応

- 現在の'InterRidge Next Decade'は 2004-2013 のプラン。次期 10 年計画を 12 月にサンフランシスコで起草する。
- 米国の Ridge 関連予算枠はなくなり、各国予算的には現在の体制維持は困難もある
- 初期の WG のみの活動から学生支援等に活動が広がっていること、一方で国際交流が IR 創成期に比べて格段に容易に実現するようになり、組織としても岐路にある。
- 次期 10 年を考えるにあたり、サイエンスとして次に目指すべきことはなにか、それを推進するための持続可能な組織の枠組みはどのようなものか、の 2 点の議論が必要。
- 12 月のサンフランシスコ会合に先立ち、国内の意見をまとめるべき
- 7-8 月に IRJ メールを使って、メール会合を開催する。これまでには幹事側で背景と議論のポイントについてのたたき台を準備し、それに沿ってメールで意見交換を行う
- 11/1-2 の IRJ 研究集会で、これまでの総括と、メールによる議論のまとめを実施する

#### 3. その他情報交換

- 2011 年度航海について、よこすかインド洋航海は震災の影響で中止（来年度再応募の必要あり）。4 月予定の沖縄トラフ航海（石橋首席）は秋に延期。
- (野木)北極の環境変動をターゲットとしたプロジェクト（6 億×5 年）がスタートし、このあと公募が行われる予定。北極海海嶺ほか、機会があれば協力を。
- (沖野)白鳳丸の次期三カ年は通常通りならばこの秋に公募となるが、震災対応のモニタリング航海等で運行委員会がこの件をいまだ議論しておらず、未定。
- (沖野)玉木さんの追悼事業（とりまとめ中西）として、AGU にメモリアルセッションを応募しているが追悼セッションは原則不可なので受諾されない可能性大。その場合は AOGS 等を考え、そのセッションの論文集の形を残したい。また、国内については、一周忌ごろに偲ぶ会を実施、そのために業績のまとめと追悼文集の準備を行う。教科書をつくりたいとの要望はあるが、もし講義資料のようなものが残っていれば電子出版等の可能性を探る予定。

以上

参加者名簿（順不同）

富士原敏也	JAMSTEC・IFREE
三好陽子	九大・理
浅田美穂	JAMSTEC・IFREE
佐藤太一	AIST
砂村倫成	東大・理
中村光一	AIST
熊谷英憲	JAMSTEC・IFREE
佐藤暢	専修大
浦辺徹郎	東大・理
島伸和	神戸大・理
川田佳史	東大・地震研
佐藤利典	千葉大・理
木下肇	JAMSTEC
鈴木勝彦	JAMSTEC
野木義史	極地研
木下正高	JAMSTEC
中村謙太郎	JAMSTEC
町山栄章	JAMSTEC
飯島？	
沖野郷子	東大・大気海洋研